

教科の目標、各科目の目標及び内容の系統表（高等学校芸術科工芸）

教科目標		芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
		「知識及び技能」	(1) 芸術に関する各科目の特質について理解を深めるとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。			
		「思考力、判断力、表現力等」	(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。			
		「学びに向かう力、人間性等」	(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。			
各科目の目標及び内容	1 目 標	工 芸 I		工 芸 II	工 芸 III	
		工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
		「知識及び技能」	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。		(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。
		「思考力、判断力、表現力等」	(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。		(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	(2) 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
	「学びに向かう力、人間性等」	(3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。		(3) 主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	(3) 主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	
	A 表 現	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1) 身近な生活と工芸		(1) 身近な生活と工芸	(1) 身近な生活と工芸	
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		「思考力、判断力、表現力等」	ア 身近な生活の視点に立った発想や構想		ア 身近な生活の視点に立った発想や構想	ア 身近な生活の視点に立った発想や構想
			(7) 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること。		(7) 生活の中の工芸を捉え、自己の思いや体験、夢などから個性豊かで創造的な発想をすること。	(7) 生活の中の工芸を多様な視点に立って考え、自己の思いなどから個性を生かして独創的に発想し、美的で心豊かな制作の構想を練ること。
			(4) 用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ること。		(4) 用途と美しさとの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練ること。	
		「技能」	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能		イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能
			(7) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。		(7) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料、用具、手順、技法などを生かし、個性豊かで創造的に表すこと。	(7) 制作過程全体を見通して制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すこと。
			(4) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。		(2) 社会と工芸	(2) 社会と工芸
		社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
		「思考力、判断力、表現力等」	ア 社会的な視点に立った発想や構想		ア 社会的な視点に立った発想や構想	ア 社会的な視点に立った発想や構想
			(7) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。		(7) 社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をすること。	(7) 社会における有用性、生活環境の特性などについて多様な視点に立って考え、使う人の願いなどから個性を生かして独創的に発想し、美的で心豊かな制作の構想を練ること。
	(4) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。		(4) 社会における有用性、機能と美しさとの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練ること。			
	「技能」	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能		イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	
		(7) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。		(7) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料、用具、手順、技法などを生かし、個性豊かで創造的に表すこと。	(7) 制作過程全体を見通して制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すこと。	
		(4) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。				
	B 鑑 賞	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1) 鑑賞		(1) 鑑賞	(1) 鑑賞	
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
「思考力、判断力、表現力等」		ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞		ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞	ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞	
		(7) 身近な生活の視点に立ってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。		(7) 身近な生活の視点に立ってよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めること。	(7) 身近な生活や社会的な視点に立ってよさや美しさを感じ取り、生活文化と工芸との関わり、作品が生まれた背景などについて考え、見方や感じ方を深めること。	
		(4) 社会的な視点に立ってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。		(4) 社会的な視点に立ってよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めること。		
		イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞		イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞	イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞	
		(7) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。		(7) 工芸のもつ機能性と美しさなどを感じ取り、生活環境の改善や心豊かな生き方に関わる工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。	(7) 工芸作品や文化遺産などから伝統と文化の価値を感じ取り、国際理解に果たす工芸の役割や工芸の伝統と文化の継承、発展、創造することの意義について考え、見方や感じ方を深めること。	
		(4) 工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること。		(4) 工芸作品や文化遺産などから表現の独自性などを感じ取り、時代、民族、風土などによる表現の相違点や共通点などから工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること。		
表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。		表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。			
(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
「知識」		(7) 造形の要素の働きを理解すること。		(7) 造形の要素の働きを理解すること。	(7) 造形の要素の働きを理解すること。	
	(4) 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。		(4) 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。	(4) 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。		